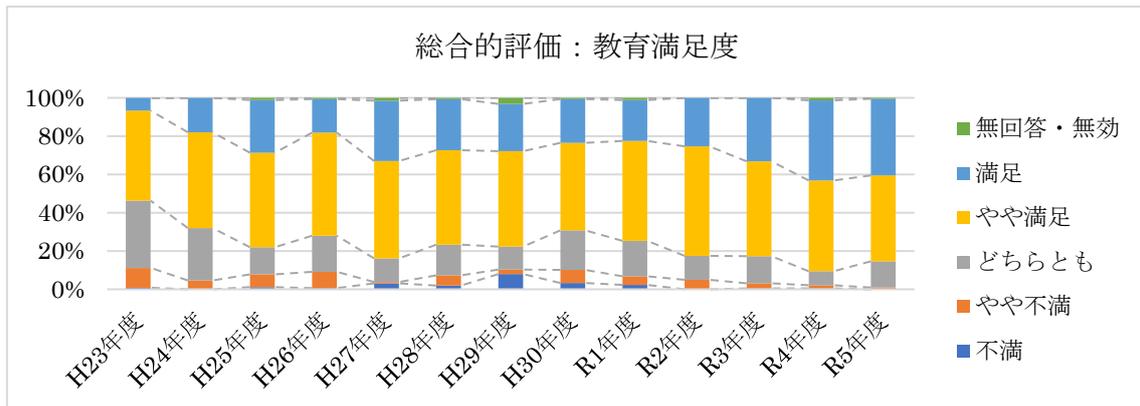


令和 5 年度卒業論文提出時調査結果概要

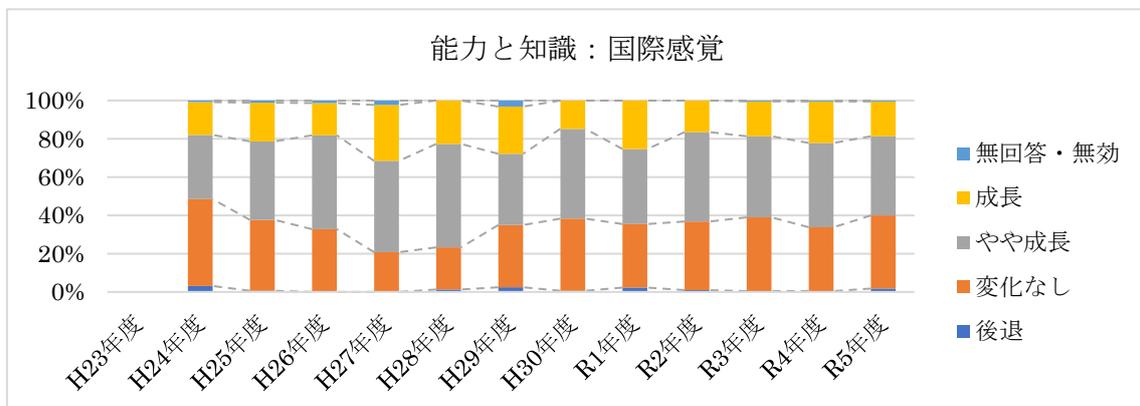
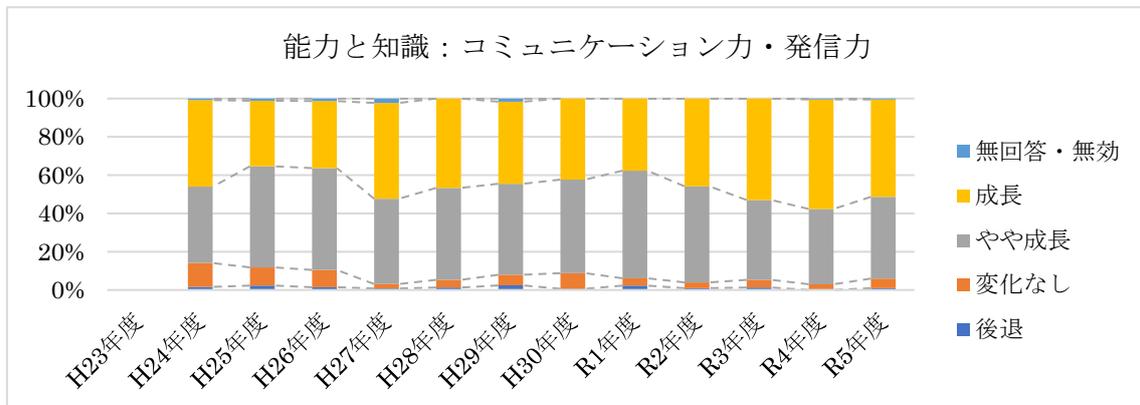
公益学部では、卒業論文を提出する 4 年次を対象にアンケートを実施し、学生の成長実感や満足度等について、過年度との比較を行っている。

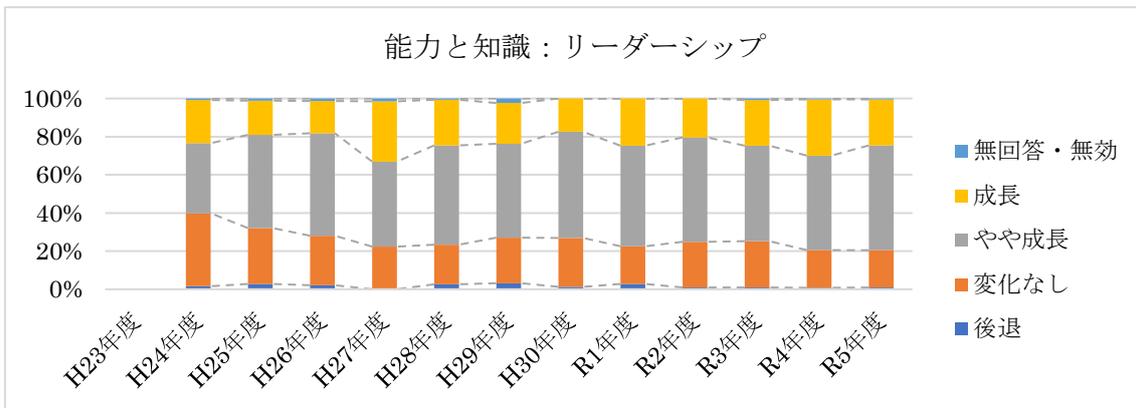
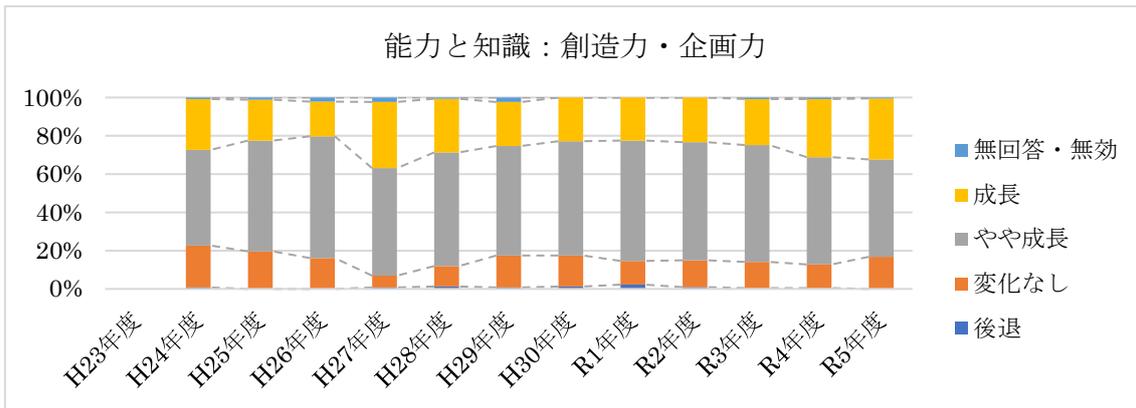
令和 5 年度（令和 6 年 1 月回収）は回収率 100%（220 名）であった。

以下、重要な項目について分析結果を記す。

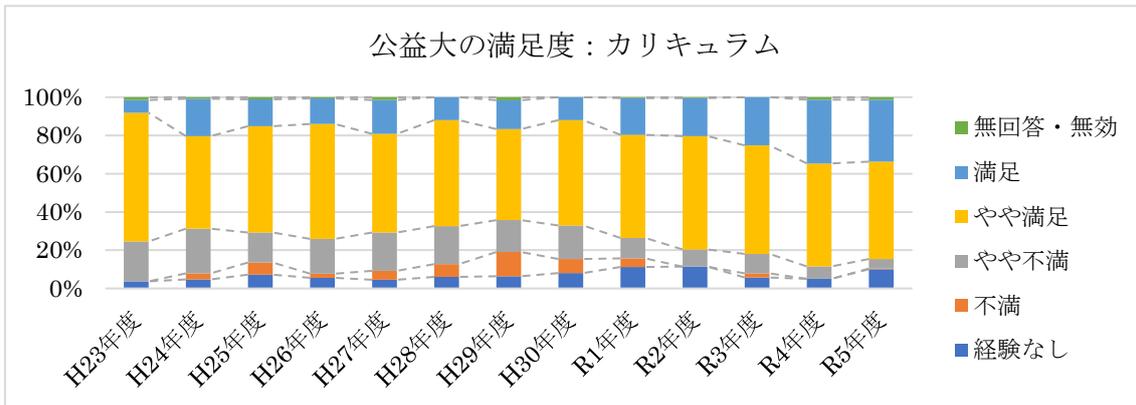


「満足」「やや満足」の合計は 85.0%と前年度より 4.3%減少したが、過去 13 年では 2 番目に高かった。一方、「どちらとも」の割合が前年度から 6.3%増えたが、これは前年度が例年より少なかったためであると考えられる。





「コミュニケーション力・発信力」「国際感覚」「創造力・企画力」「リーダーシップ」の「4つの力」について、「成長」「やや成長」と回答した割合の合計は、ここ6年ほどあまり変わっていない。



各年度から「経験なし」と回答した数値を除いて比較すると、「満足」「やや満足」の割合が92.4%と、前年度の91.9%からさらに増え、過去最高となった。令和5年度卒業生は、入学後の4年間をずっとコロナ禍の中で過ごしたにもかかわらず、これだけ高い満足度を示したということは、令和2年6月から「専門演習」など少人数の授業でいち早く対面授業を再開したり、オンラインでもディスカッション機能などを使ってアクティブラーニングを積極的に実施したりするなど、本学のカリキュラムポリシーに沿った対応を柔軟に実施することができたことが評価されたものと考えられる。